

郷土資料館だより

Vol.31. No.1

2008.9.1

企画展 「三島を襲った災害」

●開催期間 平成20年9月6日(土)～平成20年11月30日(日)



北伊豆震災絵はがき (三島町久保町附近)



狩野川台風被害の様子



平成10年の集中豪雨

今年6月14日に発生した岩手宮城内陸地震が東北地方に甚大な被害をもたらしたことは未だ皆さんの記憶に新しいことでしょう。自然災害はいつ何時我々に襲いかかってくるか予想できません。このため人間は常に自然の驚異と対峙し、いかにして災害を免れるかということに知恵を絞ってきました。災害との闘いは人類の歴史と言っても決して過言ではありません。今回の企画展はその災害について、とりわけ三島を襲った災害を中心に取りあげます。折しも本年は昭和33年(1958)9月に発生した狩野川台風からちょうど50年を迎えます。近年は災害対策も進み、かつての大きな規模の災害も少なくなってきましたが、三島市の災害の歴史を振り返り、将来的な防災への関心を高めていただければ幸いです。

～企画展関連講演会～
「狩野川台風を語る」

日時 平成20年9月20日(土) 13:30～
会場 三島市本町プラザ4階会議室
講師 谷口隆太氏 (狩野川資料館ボランティア)
小泉安三氏 (郷土史家)

※申し込み、お問い合わせは三島市郷土資料館まで

○三島を襲った災害

〈安政東海地震〉嘉永7年(1854)11月4～5日、東海地方に推定マグニチュード8.4の大地震が起り、各地で大きな被害が出ました。三島宿場内は壊滅的な被害を受け、更に火災も発生しました。また三嶋大社では、境内の樹木の大半が折れ、建物は全部倒壊しました。

〈北伊豆震災〉昭和5年(1930)11月26日早朝、函南町丹那盆地付近を震源地とする大地震が発生しました。マグニチュードは7.3、三島市でも震度6の烈震を観測しました。市街地をはじめ至るところで建物が崩壊し、死者・行方不明者272名など大きな被害をもたらしました。

〈狩野川台風〉昭和33年(1958)9月26日夜半、台風22号は伊豆半島東部をかすめ、関東南部へ上陸しました。この台風は大仁・修善寺を中心とする狩野川流域の市町村に甚大な被害をもたらし、未曾有の大惨事となりました。三島でも中郷地区などに被害をもたらしました。

〈平成の集中豪雨〉平成2年(1990)9月15日未明から16日にかけて、三島地区では総雨量161mmを記録。前日から降り続いた雨と、裾野方面の集中豪雨が同時に大場川に流れ込み、上神川橋付近では水位4mの濁流が兩岸を超える激流となりました。この結果、大場川沿いの家屋の流失など甚大な被害をもたらしました。

ふるさと歴史文学コーナー（本町タワー4階） 「古代の輸送路～埋没河川を求めて～」開催中

●開催期間 平成20年5月29日(木)～平成20年10月14日(火)

三島市安久にある伊勢堰遺跡・箱根田遺跡は、奈良・平安時代の遺跡です。現在、「古代の輸送路」をテーマに、両遺跡の発掘調査で検出した河川跡や出土遺物を紹介しています。

伊勢堰遺跡と箱根田遺跡

伊勢堰遺跡（平成19年調査）は、国内最大級の人面墨書土器（三島市指定文化財）が出土した箱根田遺跡（現在のコーエー店舗）の北側に位置します。現在、遺跡周辺には河川はありませんが、両遺跡の発掘調査では、今から約1,300年～1,100年前の奈良・平安時代の河川跡が検出され、土器や木製品も多数出土しました。また川岸では、収穫物を保管した倉庫跡も検出しています。

河川跡と倉庫跡、この二つの遺構の検出から、御殿川や大場川、狩野川を經由して駿河湾に繋がる「河川を利用した輸送路」の存在が考えられます。

河川を利用した輸送路

現在、物資を運ぶ方法としては、トラックなどの車の利用が一般的です。では、車のない奈良・平安時代は、どうだったのでしょうか？

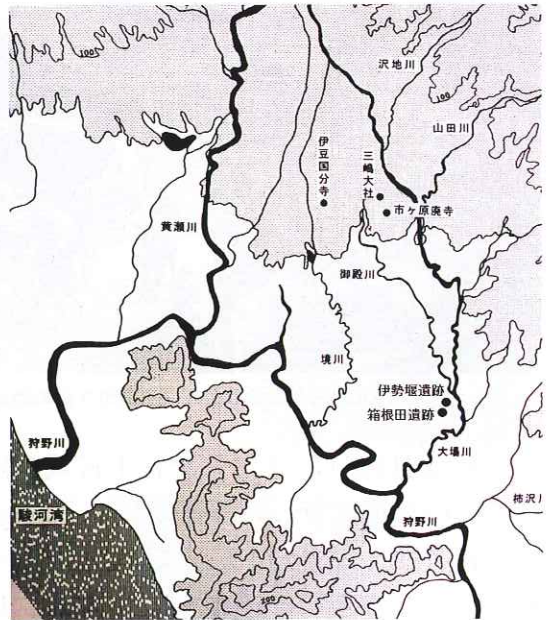
奈良・平安時代、隣の駿河国と伊豆国を結ぶ官道が整備され、物資は、この官道を利用して人や牛が担ぎ、または荷車で輸送していました。しかし、この方法では一度に運ぶ量が限られます。大量輸送の方法として効率的なのは、地理的条件にもよりますが、河川を利用する水運です。伊勢堰・箱根田遺跡は、駿河湾から狩野川や大場川、御殿川を利用し、伊豆国府に繋がる水運ネットワークの中間点に位置し、物資の集積・積み替えを行う中継地、川の港“津”だったのです。

川の港“津”と祭祀

奈良・平安時代、疫病や自然災害など「災い」の発生原因を、当時の人々は目に見えない霊的な存在である「疫神・鬼神」が、他地域から闇にまぎれて風と共に、または他地域から持ち込まれる物資と共に、集落内に入り込むことで発生すると信じていました。

川の港“津”である伊勢堰・箱根田遺跡からさらに約3.5km、川を遡れば伊豆国府推定地に至ることから、両遺跡は伊豆国への入口・他地域との前線基地に位置します。そして、ここには津を管理する役人がおり、役人により疫神が集落に入り込まないように「津の入口」や「道の境」などで疫神にお酒や食べ物を捧げてもてなし、集落外へ引き返してもらう「進入防止の祭祀」、また日照りや長雨などの自然災害が治まるよう、当時は貴重であった馬を殺し、頭部を切り離して神に捧げる「水神の祭祀」を行っていました。

その他、400点を超える桃の種も出土しています。桃は延命長寿のシンボルで、また、鬼退治の主役に桃太郎の名が付けられたように、厄除けや邪気を払う霊力があるとされています。



水運ネットワーク



伊勢堰遺跡検出の河川跡

企画展報告

今回は、郷土資料館で所蔵している多くの寄贈資料の中から、今まで紹介する機会の少なかった資料を中心に、2回に分けて展示しました。

「☆み～つけた！暮らしから生まれた人形と生活の中の美☆」

●開催期間 平成20年3月15日(土)～平成20年6月1日(日)

上巳の節句と端午の節句に合わせて、雛人形や五月人形を展示しました。その他にも、瀬川真氏の絵はがきや、新三島十景絵はがき、落雁をつくるための木型を展示しました。ゴールデンウィーク中には特に多くのお客様が訪れて賑わいました。



雛人形



鯉のぼり



新三島十景絵はがき

「☆これなーんだ？昔の道具☆」

●開催期間 平成20年6月15日(日)～平成20年8月31日(日)

小学生の見学の多い6、7、8月には、昔の台所道具や洗濯道具、夏場に活躍した道具、戦時中使われた道具をクイズ形式で紹介しました。来館者は、「これなーんだ？」の表示をめくって答えを見て楽しんでくれました。また、昔よく使ったと懐かしそうに見学する姿が見られました。



台所道具



夏に使う道具



裁縫道具・行李等

まだまだ紹介しきれない資料がありますが、今後も皆さんからの寄贈資料を大切に、展示で紹介して多くの方にご覧いただきたいと思ひます。

ふるさと歴史文学コーナー(本町タワー4階) 「東海道と三島宿」報告

●開催期間 平成19年11月22日(木)～平成20年5月27日(火)

平成19年度富士・沼津・三島三市博物館共同企画展「遥かなる東海道～富士・沼津・三島の記録～」に合わせ、本陣資料や旅の道具、下馬札などを展示しました。また、浮世絵(複製)を使いながら江戸時代の三島宿について紹介しました。

約300年もの長い間続いた江戸時代の東海道を展示で紹介するためには様々な工夫が必要となりますが、江戸時代、東海道の宿場の一つとして栄えた三島宿は、三島市にとって大切な文化資源です。そのため、これからも三島宿を分かりやすく紹介できるよう努めていきたいと思ひます。



展示風景

ふるさと講座「江戸時代の旅Ⅱ」 西国巡礼道中記を読む 報告

- 平成20年7月13日・21日 13:30～15:00
- 講師 関 守敏氏(郷土史家)
- 参加者 13日27人 21日24人
- 会場 本町プラザ第一会議室

平成18年度に行った郷土史家、関守敏さんによるふるさと講座「江戸時代の旅」が好評でしたので、前回に引き続き第二弾「江戸時代の旅Ⅱ」を2回連続の講座として開講しました。

今回は、「西国巡礼の道中記を読む」ということで、関さんは、巡礼の衣装をまとい鈴を鳴らしながらお話をしてくださいました。また、今回も旅をする際に用いる小物や旅に関する様々な資料をみせてくださり、会場全体が旅の雰囲気になりました。

参加者も募集人数より多く集まり、和やかな空気の中、短い時間でしたが江戸時代の旅を楽しんでいただくことができました。

関さんには、江戸時代の旅について盛り沢山の内容を丁寧にわかりやすく解説していただき、参加者からは次回の講演会を望む声が多く寄せられ今回も大変好評でした。



平成20年度 富士・沼津・三島3市博物館共同企画展

「あそび歳時記」

- 富士市立博物館：平成20年7月19日(土)～9月23日(火)
- 沼津市歴史民俗資料館：10月1日(水)～12月7日(日)
- 三島市郷土資料館：12月14日(日)～平成21年2月22日(日)



子どもの遊びをテーマに季節の遊びや伝統の遊びを紹介し、また同時に、子どもの遊びをテーマにした芸術作品(三四呂人形など)や各館所蔵の遊びに関する逸品、静岡県内の代表的な郷土玩具を紹介し、(協力/日本雪だるまの会)



富士市立博物館展示風景

平成19年度 郷土資料館事業報告

1 企画展

(人)

テ ー マ	実 施 日	展 示 内 容	入館者数
「ふるさとの人物」	7月15日(日) ～9月24日(月)	ふるさとの人物と業績の紹介 (ポスター、パンフレット作成)	6,874
「楽寿園の名宝」	10月28日(日) ～11月30日(金)	小松宮と楽寿館・李王世子・楽寿園 開館当時の様子 (ポスター、チラシ、図録作成)	8,895
富士・沼津・三島三市 博物館共同企画展 「遙かなる東海道 ～富士・沼津・三島の記録～」	12月9日(日)～ 平成20年2月24日(日)	三島宿・東海道を通った人・モノ・ 朝鮮通信使 (ポスター、パンフレット作成)	7,393
「☆み～つけた!暮らしから 生まれた人形と生活の中の美☆」	平成20年3月15日(土) ～6月1日(日)	館収蔵品・最近の寄贈品紹介	10,054

2 その他展示

(人)

会 場	日 程	内 容
ふるさと歴史文学コーナー (本町タワー4階)	平成19年5月17日(木)～ 7月24日(火)	「三島を巡って～武田・北条・今川の歴史～」
	平成19年7月26日(木)～ 11月24日(火)	「三島ゆかりの作家たち －太宰治・大岡博・小出正吾・五所平之助－」
	平成19年11月22日(木)～ 平成20年5月27日(火)	「東海道と三島宿」
三嶋曆師の館		三嶋曆、三嶋曆関係資料の展示
西小学校3階 郷土資料室		小学生向、郷土資料の展示 (一部展示替えを夏期休暇中に実施)

3 講座・教室・講演会

(人)

講 座 名	日 程	講 師	内 容	参加者数
子どもの日スペシャル	5月5日(土)	当館学芸員	風船張子を作ってみよう	50
郷土教室	8月3日(金)	富士市立博物館職員	紙すき体験	14
ふるさと講座(5回)	7月27日(金)	迫田信行氏	ふるさとの人物ゆかりの地を訪ねて	14
	9月21日(金)	富士宮市観光ガイドボランティア	富士山麗水伝説めぐり	25
	1月20日(日)	当館学芸員	チマチョゴリを着て写真を撮ろう	35
	1月20日(日)	当館学芸員	朝鮮通信使ビデオ上映会	23
	2月16日(土)	ユン・インスク氏	本場韓国キムチを作ろう	17
企画展関連講演会 (2回)	11月24日(土)	木村圭吾氏 篠原弘氏	千年桜に想いを込めて	37
	2月9日(土)	北村欽哉氏	三島と朝鮮通信使	32

寄贈資料紹介

平成20年1月中旬から7月に、次の方々からたくさんのご寄贈の協力をいただきました。ありがとうございました。(50音順・敬称略)

川口 保	沼津市	大太鼓 (大)	1点
		大太鼓 (小)	2点
		小太鼓	3点
杉山好男	三島市	一斗瓶	2点
		五升瓶	1点
		一升瓶	1点
		貧乏徳利	2点
藤田玲子	長泉町	囑託状	9点
三島市農政課	三島市	レコード	1点
峰田清一	清水町	三島都市計画図	1点
		市街宅地等級帳	1点
桃太郎玩具店	三島市	農兵人形	1点
		風呂敷	1点
		暖簾	1点
		乗用ビッグロゴ	1点
その他		五月人形	1式
		蒸整器	1点
		手編器	1点
		千人針	1点
		トランク	1点
		絵葉書	1点
		古文書他	1式



市街宅地等級帳



農兵人形



蒸整器

【平成20年度郷土資料館職員の紹介】

館長 中野 行男
鈴木 隆幸、鈴木 美穂、田中 之博、政木 愛子



【編集後記】

今年度はメンバーが変わり、当館の展示も常に展示替えをしています。何度来ても楽しめる郷土資料館を目指します。(M)



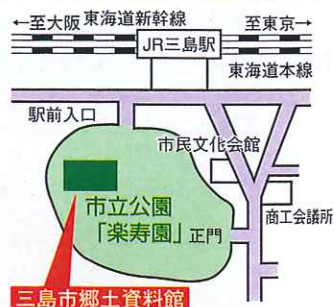
三島市郷土資料館

利用案内

●休館日
毎週月曜日
(祝日の際は翌日)
12月27日～1月2日

●開館時間
午前9時～午後5時
(4/1～10/31)
午前9時～午後4時30分
(11/1～3/31)

●入館無料
(ただし、楽寿園入園の際に有料)



●三島駅(南口)から徒歩5分。
市立公園楽寿園内

郷土資料館だより vol.31 No.1 (第91号)

発行日 平成20年(2008)9月1日
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
〒411-0036
静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228
FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/
発行 三島市教育委員会